

2014 年 育苗へ取組む中で苦労された事

1、大阪南地区内で極早生品種「ひとめぼれ」の栽培実績がなかった事や、田植日が5月20日頃と早く逆算すると、播種時期の気温が低いため、育成状況への影響が一番気にかかる点だったこと。

2、頂いたもみ種 1kgは流通している状態ではなく、収穫時に取り分けた状態だったため、種子の掃除、塩水による選別作業を行ったのち病気予防のため、総合種子消毒剤による浸漬処理を行ないました。

3、少量のため機械による作業ができなかったため、手撒きで播種を行い、またJAの出芽室では、大きすぎて室温調整が困難の為、個人で行っている出芽室を借り、芽出しをおこないました。

4、芽出し後、日中は自宅ビニールハウス内で育成管理、夜間は気温の低下を避けるため、自宅屋内に入れ管理を行いながら5枚の苗を育成することが出来ました。

5、奇跡の復興米を栽培することになった経緯と想い、量の少ない中で必ず成功させなければならないという事が一番のプレッシャーだったと思います。